

検査による事故を未然に防ぎ、検査を受けることが皆様にとって不利益とならないよう、自覚症状や既往歴に対応し、検査可能か判断する安全基準が設けられました。次の方は集団検診を受けることができませんので、事前に必ずお読みください。

①現在妊娠中の方、またはその疑いがある方。	・胎児の安全を考える為です。
②バリウム製剤に対し、 過敏症 の既往歴のある方。	・バリウムで過去に呼吸困難、じんましん、手足の冷えなどの症状が出た方は、今回バリウムを飲むことで 更に重い症状 が出る可能性が高く、過去に死亡事例もあります。
③過去2ヶ月以内に大腸ポリープを切除された方。	・切除部分から、 出血する可能性 があります。
④過去1年以内に開腹(腹腔鏡下)、内視鏡下、開胸、心臓カテーテル、頭部の手術等や 整形外科の手術 をされた方、 また、1年経過後も通院中の方で主治医の許可がない方。 (整形外科を除く)	・バリウムが腸内に停滞し、固まってしまうことが予測されます。 最悪の場合、開腹手術 をしなければならないこともあります。 ・検査中撮影台が動きます。手足に力が入らず、撮影台の手すりを強く握れなかったり、足に力を入れて体を支えられないと、 撮影台から転落し、大けがをする可能性 があります。
⑤1年以内に 狭心症、心筋梗塞や脳梗塞等 を発症したことのある方。 また、1年経過後も通院中の方で主治医の許可がない方。	・心筋梗塞や脳梗塞を発症したことがある方は、検査時のストレスにより 再発作の可能性 があります。
⑥1年以内に てんかん発作 のあった方。	・検査時の安全確保のための基準です。
⑦腸閉塞、腸捻転の既往歴がある方。	
⑧ 炎症性疾患(潰瘍性大腸炎・クローン病)の治療中 で主治医の許可がない方。	・飲んだバリウムは腸の中でゆっくり固まりながら通過し、肛門から排出されます。過去に腸閉塞の既往があったり、3日以上便秘の状態であると、バリウムが腸内に停滞し固まってしまうことが予測されます。
⑨1年以内に 憩室炎と診断 され治療をうけたことがある方。	・最悪の場合、開腹手術をしなければならないこともあります。
⑩便秘症で 検査前72時間(3日)以上排便がない 方。	
⑪腎臓病(人工透析)・心臓病などで 水分制限 を受けている方。	・バリウムの排出を促すため、 下剤や水分を多めに摂取していただく必要があります 。 結果、腎臓に負担をかけ、病気を悪化させる可能性があります。
⑫自力で 立位を保持 することや撮影台の手すりを自分で つかむ ことが困難な方。	・検査中撮影台が動きます。手足に力が入らず、撮影台の手すりを強く握れなかったり、足に力を入れて体を支えられないと、 撮影台から転落し、大けがをする可能性 があります。
⑬ペースメーカー使用の方で主治医の確認がない方。	・ X線装置によりペースメーカーが誤作動を起こし、重篤な状態を引き起こす可能性 があります。 ます 。ペースメーカー手帳をよくお読みになり、主治医の先生に事前にご相談ください。
⑭インスリンポンプ、持続グルコース測定器を装着している方。	・ X線検査により誤作動や故障につながる可能性 があります。
⑮普段から食べ物や飲み物が飲み込みにくい、むせやすい方、以前にバリウムの誤嚥があった方。	・バリウムが気管に入り、誤嚥性肺炎など重大な病気を引き起こす可能性があります。
⑯体重120kg以上の方。	・撮影機器の構造上、安全を図るために体重制限があります。

※以上の項目に該当する方は今回の検診は、適当ではありません。

医療機関を受診して、胃内視鏡をお受けになることをお勧めいたします。